

普及情報（平成26年度）

分類名〔病害虫〕

テブフロキン水和剤（商品名：トライフロアブル）の いもち病に対する防除効果

宮城県古川農業試験場

1 取り上げた理由

新規に開発されたいもち病防除薬剤であるテブフロキン水和剤の防除効果について検討したところ、高い防除効果が明らかになったので普及情報とする。

2 普及情報

- 1) テブフロキン水和剤の茎葉散布処理は、葉いもち、穂いもちともに防除効果が高いことから、いもち病防除薬剤として有効である（図1）。
 - a 薬剤名 テブフロキン水和剤（商品名：トライフロアブル）
 - b 有効成分 テブフロキン15.0%
 - c 性状 類白色水和性粘稠懸濁液体
 - d 毒性 普通物

3 利活用の留意点

- 1) 本剤の対象病害虫はいもち病で、収穫14日前まで、使用回数2回以内の散布剤である（表1）。
使用に当たっては最新の農薬登録情報を確認する。
- 2) 本剤の主な試験事例と評価は表2のとおりである。
(問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物保護部 電話0229-26-5108)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名及び研究期間
新農薬による病害虫防除試験（平成20－23年度）
- 2) 参考データ

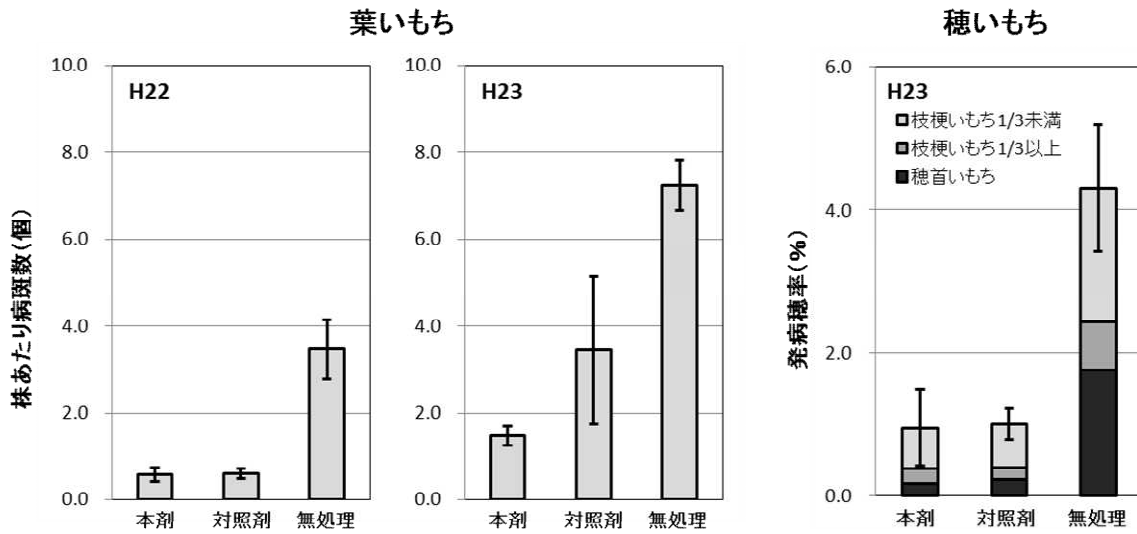


図1 テブフロキン水和剤の葉いもち、穂いもちに対する防除効果

- 注1) 葉いもちは、H22、H23ともに無処理区中発生条件下での試験である。
- 注2) 穂いもちは、H22は極少発生のため未評価、H23は少発生条件下での試験である。
- 注3) 穂いもちの効果試験は、葉いもち無防除条件下で実施した。
- 注4) 薬剤は対照剤も含め1,000倍、150L/10aで散布した。
- 注5) 対照剤はフェリムゾン・フサライド水和剤を用いた。
- 注6) 散布回数は葉いもち、穂いもちともに2回で実施した。
- 注7) 図中のバーは標準誤差を示す (n=3)。

表1 テブフロキン水和剤の登録内容（平成26年1月現在）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	テブフロキンを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病	1000倍	60～150L /10a	収穫14日前 まで	2回以内	散布	2回以内
		8倍	0.8L/10a			無人ヘリコプター による散布	

表2 新農薬による病害虫防除試験における試験成績概評

年次	実施場所	供試品種	対象部位	発生条件	判定		
					対対照剤	対無処理	総合
H22	宮城	ひとめぼれ	葉	中	B	A	A
	宮城	ひとめぼれ	穂	極少	判定不能		
	山形	はえぬき	穂	多	B	B	B
	秋田	あきたこまち	葉, 穂	葉; 甚 穂; 中	葉; D 穂; B	葉; C 穂; B	葉; C 穂; B
H23	宮城	ひとめぼれ	葉	中	A	B	B
	宮城	ひとめぼれ	穂	少	B	B	B
	秋田	ナツミノリ	穂	中	B	B	B
	青森	あきたこまち	葉, 穂	葉; 極少 穂; 極少	判定不能		

- 注1) 対照部位の「葉」は葉いもち、「穂」は穂いもち、「葉、穂」は葉いもちと穂いもちの体系防除を示す。
- 注2) 発生条件は「極少」、「少」、「中」、「多」、「甚」の5段階評価。
- 注3) 判定は「A」、「B」、「C」、「D」、「判定不能」の5評価。Aは効果が高く、Dは効果が低いことを示す。
- 注4) 本表は東北地方での試験事例を抜粋したものであり、東北地方以外でも試験は実施されている。
- 注5) 本表は一般社団法人日本植物防疫協会が運営するJPP-NETの公開データから作成した。

- 3) 発表論文等
なし
- 4) 共同研究機関
一般社団法人日本植物防疫協会